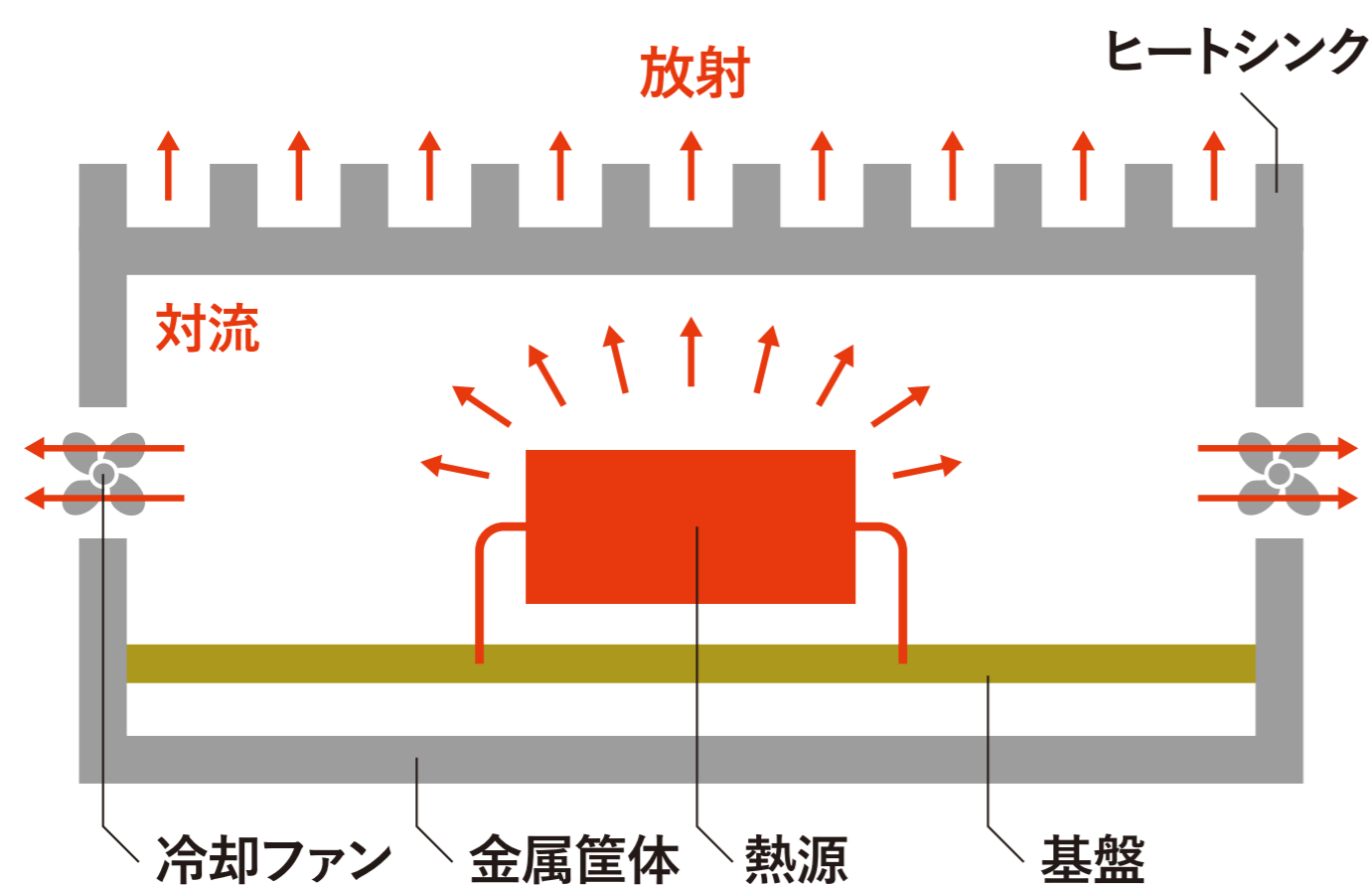


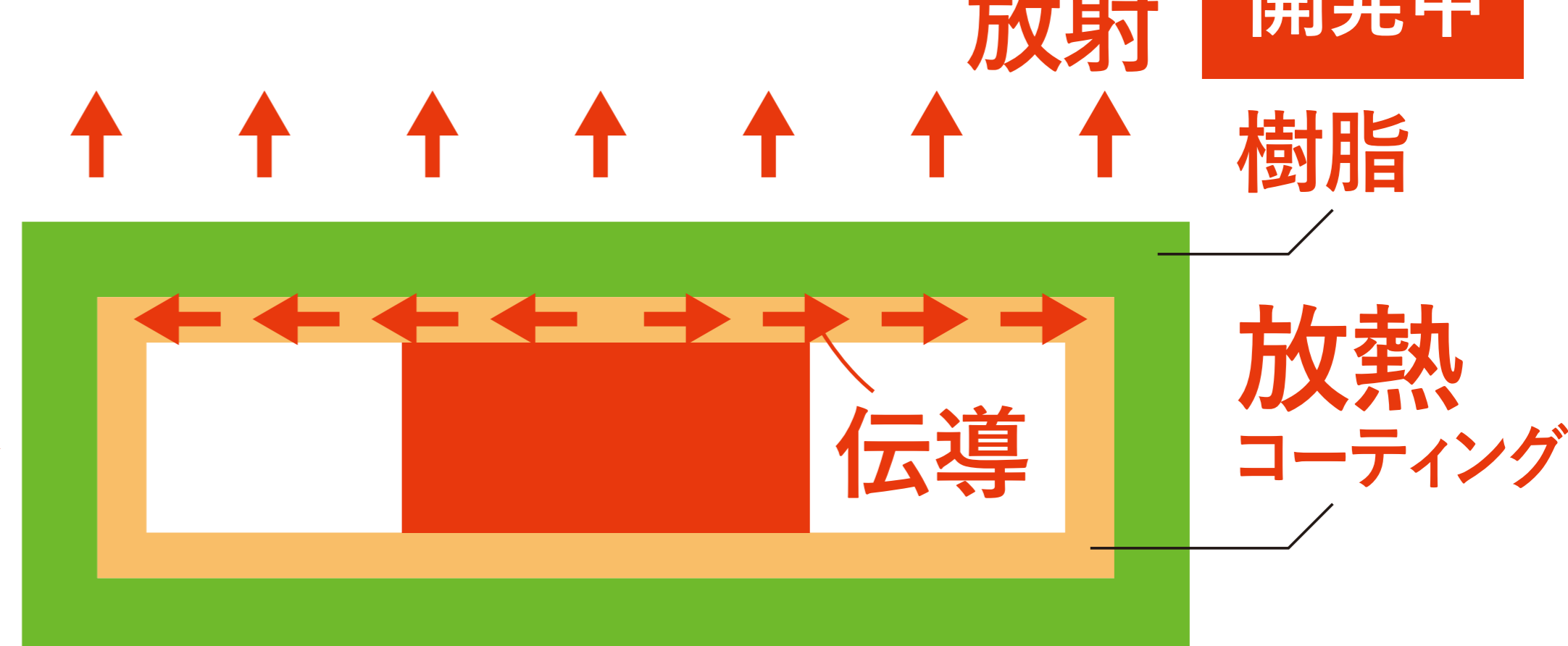
コーティングによる、効率的な熱伝導・放射。

放熱コーティング

[従来方式]



[コーティング実装放射設計]



従来は熱源から発生したエネルギーを内部空気から筐体へ伝え、ヒートシンクから外部へ放熱する方式だったため、大型化や、非効率な放熱設計が問題になっていました。

筐体内部の熱エネルギーを、内部空気を介さず放射コートに直接伝えることで、熱伝導が促され、放熱効果を高めることが可能になります。

コーティングによる **メリット**

効率的な放熱

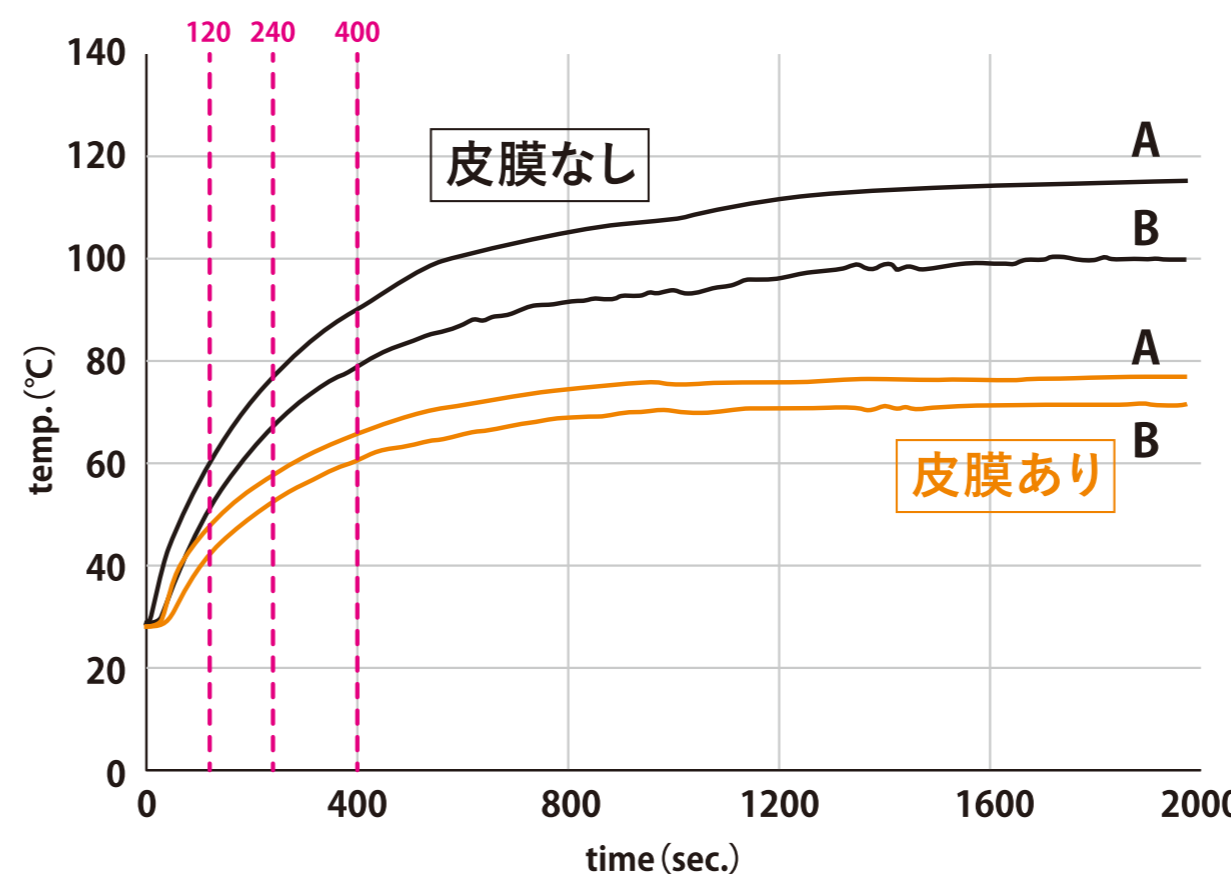
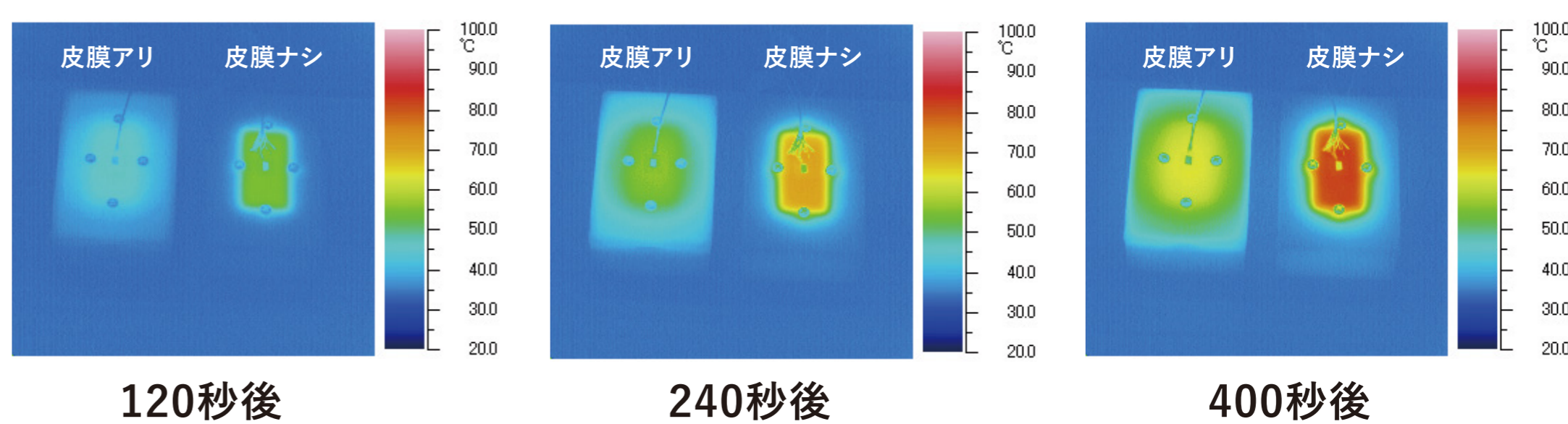
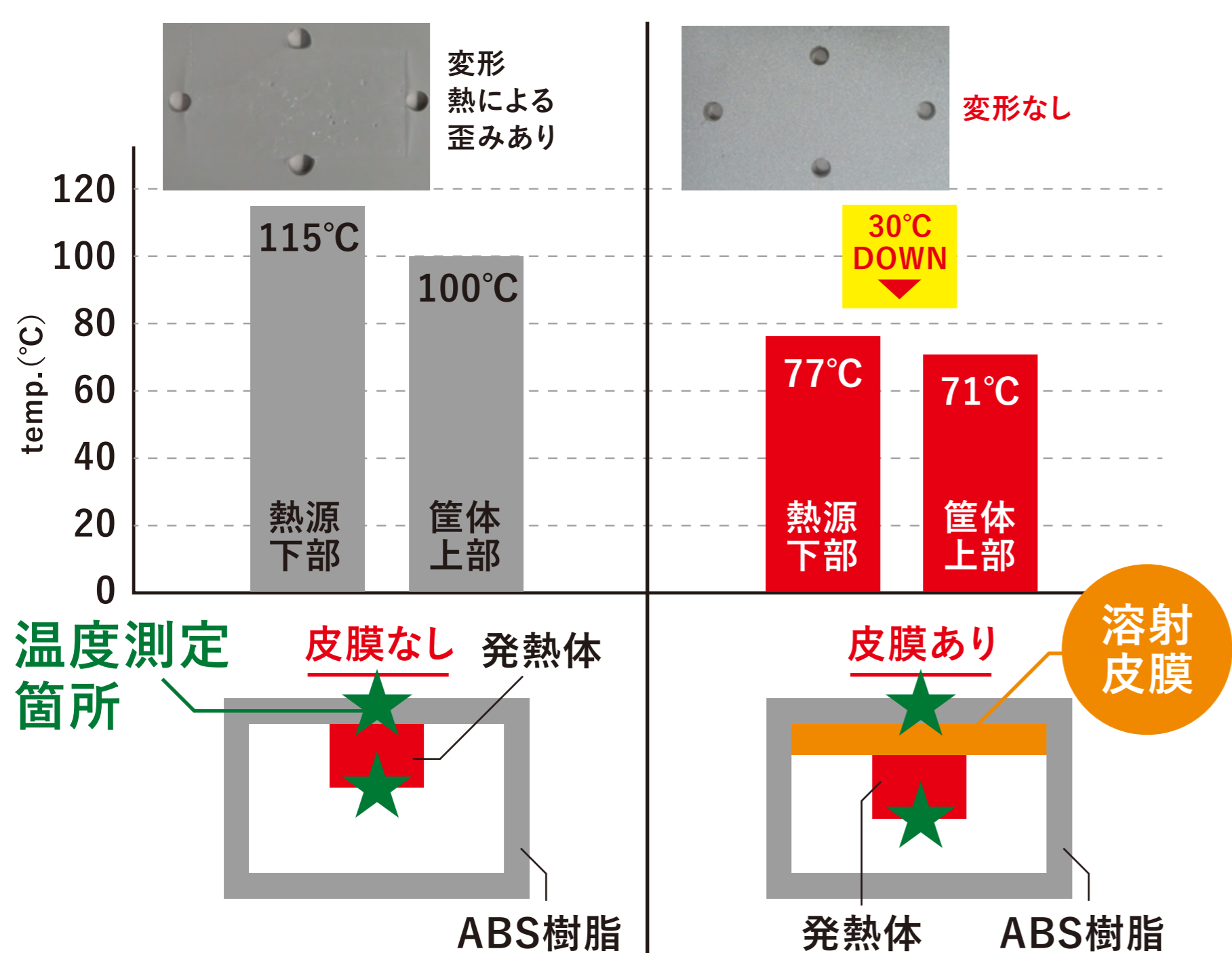
筐体を樹脂化することで
軽量化・小型化

特徴

- ①放熱コーティングにより熱源から樹脂筐体を通して、熱を効率的に逃がします。
- ②複雑形状のものにも均一で規則性の高いコーティングが可能になります。
- ③ヒートシンク・局部冷却ファンの換気口が不要になり、小型化・薄型化が実現。

放熱効果グラフ

①放熱温度比較(放熱コーティングあり/なし)



アルミ筐体と樹脂筐体(+溶射皮膜)の重さを比べると
樹脂筐体(+溶射皮膜)がアルミ筐体と比べて*

48%軽量化

※4Wの電力をかけた場合 ※2000秒後のグラフ

※どちらも t=2mm 100×65×35mmの筐体で比較

主な用途

- ①各種パワエレ電子デバイス
- ②医療用機器・カメラ
- ③車載樹脂筐体のシールド、熱対策に

※本資料に記載した数値は一例であり、特性を保証するものではありません。